２７．６．６
杉並区広報課

第１回ホタルサミットを開催

６日、杉並区立久我山会館（久我山３－23－20）では、杉並区の交流自治体（群馬県東吾妻町、新潟県小千谷市、青梅市）でホタルの保護や育成活動、自然環境の保護に取り組んでいる団体の方々や杉並区の関係者が集まり、第１回ホタルサミットが開催されました。

かつて久我山にもホタルが自生していましたが、今ではその姿は見られなくなってしまいました。今年で第20回目を迎えた「久我山ホタル祭り」は、子どもたちの心にホタルの灯をともし、子どもたちが自分自身の目や心でホタルが見れるよう、ホタルが住めるような環境の再生を目指そうと始められました。

杉並区の交流自治体の中には、ホタルが自生している地域があり、ホタルが地域の魅力の一端を担っています。今回このホタルを共通のテーマとして、交流自治体との交流を促進することで、活力と魅力のあるまちづくりに取り組もうと、20回目を迎えた久我山ホタル祭りに合わせて、第１回ホタルサミットが開催されたものです。

参加したのは、久我山で再びホタルが見られるよう日々活動する方々と杉並区の交流自治体（群馬県東吾妻町、新潟県小千谷市、青梅市）でホタルの保護や育成活動、自然環境の保護などに取り組んでいる団体の方などです。

ホタルサミットの最後には「ホタル交流宣言」を行い、今後もホタルを通した交流や、生命の大切さや自然環境の重要性、多くの人々にホタルのすばらしさを伝えていくことなどが確認されました。

今日午後３時には、群馬県昭和村の元教育長であり、現在、ＮＰＯ法人「清流の会」副理事長の「角田侃男（つのだ　やすお）」氏による基調講演が行われ、また、久我山会館２階には400匹のホタルを歩きながら観賞できる「ホタル観賞ルーム」が設置されて、ホタルが放つ幻想的な光が訪れた人々を魅了していました。

交流自治体の物産展や地元久我山からの出店、高千穂大学の学生による企画コーナーなど様々な催しもあり、また、スノーパーク会場では、雪国新潟の小千谷市から、雪蔵で保管していた本物の雪12トンが届き､ホタルサミットに華ならぬ雪を添えていました。

【問い合わせ先】　産業振興センター：５３４７－９１３８